

第20回安八町少年教育交流団

中国研修報告

8月3日(金)～8月9日(木)

町内小学校の5、6年生12人が中国江西省を訪れ豊城市の小学生たちと元気に教育交流を行いました。

貴重な交流と体験

交流団団長 渡邊 均(名森小学校長)

私たち、第20回訪中安八少年教育交流団は、日中国交正常化40周年、安八町教育交流団開始20周年という記念すべき年に訪問をすることができました。

「和魂漢才」として、奈良・平安の昔から江戸時代まで、いつも日本は中国の文化に学ばうとしてきました。そして、今、中国を代表する上海は、超高層ビルが建ち並び近代化された大都市となっています。

あっという間に過ぎたこの7日間の研修でしたが、子どもたちは予想していた通り、実り多い研修にする努力をすることにも、十分その成果を上げることができました。

このような貴重な機会を与えてくださった、町長様はじめ関係の皆様にごより感謝を申し上げます。

中国研修の思い出

名森小学校6年 岩田 冴良

私が中国研修での一番の思い出はホームビジットです。最初はうまく話せるか緊張していたけれど、家族の人たちが笑顔で温かく迎えてくれました。また、家族で食べたご飯もとてもおいしかったです。

お土産を渡したお礼に「弥勒仏」をもらいました。話もジェスチャーや英語で伝えることができてとてもよかったです。

私が知っていた中国との文化のちがいは、家が戸建てがあまりないことや、日本と違い面白い標識がたくさんあったことです。

この七日間の中国研修は、一生思い出に残る良い経験になったと思います。

ありがとうございました。



▲中国研修で楽しい思い出ができました

中国の文化にふれて

牧小学校6年 金森 美涼

研修を終えて特に印象に残っているのは、3日目の江西省雑伎団学校訪問です。雑伎団のみなさんが柔軟性や血回しなどたくさん披露してくださいました。テレビで見たことのあの演技もあったけれど、実際に見る柔軟性は想像以上に柔らかくて感動しました。雑伎団学校の生徒さんは大勢いてみんな毎日訓練をがんばっているそうです。見ているだけで感動しました。

一週間の研修を終えて、健康・荷物の管理や5分前行動などを自分で考えて行うことの大切さや、今まで助けてもらった家族のありがたさを感じました。引率していただいた先生方、安八町長様はじめ多くの方々への感謝の気持ちでいっぱいです。これから研修で学んだことを生かしていきます。



▲とても感動した雑伎団学校での訓練風景

中国研修で作ったたくさんの宝物

結小学校6年 長谷川 明依

私は、中国研修に行き、印象に残っていることは、ホームビジット先のキャンヒちゃん、とても仲良くなれた事です。私は、ホームビジット先でちゃんと言葉が通じるのかすごく不安でした。でも、キャンヒちゃんの家族が笑顔で私を迎えてくれて、言葉は通じなかったけれど、ジェスチャーで会話することができました。今までにない体験だったので一生の宝物になりました。

今年で中国の豊城市との交流は20年目と聞きました。豊城市と安八町の交流がこれからもずっと続くように、中国に行かせていただいた私が、中国の良さをまわりに伝え、ますます豊城市と安八町の絆が深くなるといっていました。

このような機会をあたえてくださり心から感謝しています。ありがとうございました。



▲仲良くなったキャンヒちゃん